

## 平成22年度自己点検・自己評価（総括）

### I 学校評価（自己点検・自己評価）の取り組みについて

平成19年の学校教育法及び学校教育法施行規則の改正により、平成20年度から専修学校にも自己点検・自己評価が義務付けられました。

本校では、20年度から進路指導を重点に実施してきましたが、平成22年度は、これまで未整備であった本校の教育体制の確立とそれらを支える組織作りを重点に、様々な取り組みを進めてきました。ここでは、これまでの取り組みをとおした本校教育の現状を点検するとともに、課題を明らかにし、これに基づく具体的な取り組み方針を策定しました。

### II 本校の特色

本校教育は、科学技術の進展に対応した知識や技術・技能を教授し、社会において即戦力として活躍できる実践的技術者の育成を目指しています。中でも、本年度は技術の高度化や上位の国家資格の取得に対応するため、一級自動車工学科の4年制への改編、ならびに情報システム学科の上級学科として研究科を新設し、23年度から学生を受け入れることにしました。また、自動車カスタマイズ学科のカスタムカー作りへの重点化やエコカーの全車種導入など施設・設備の充実を図るとともに、他校の追従を許さない教育環境の整備や教育力の向上に努めています。

中でも、教職員の資質能力の向上の取り組みの中で自己啓発と指導力向上は、教職員の意識改革を促すとともに、本校教育の質的向上を目指す最も重要な取り組みです。これらについては、本年度、研究紀要等の成果物に見られるように、着実に成果が上がっており、本校の大きな特色として位置づけることができます。

### III 自己点検・自己評価の結果について

#### 1 教育理念、教育目標、教育方針及び育成する学生像に関する自己点検・自己評価

##### (1) 教育理念

本校の教育理念は、「技術教育を通しての人間教育」です。つまり、技術教育に偏ることなく人間として人としての在り方生き方を基本に置く技術教育であり、人の痛みの分かる人間性豊かな人材の育成を目指しています。

##### (2) 教育目標

本校では、教育理念の下、人間性、技術者としての創意工夫、心身の健康を兼ね備えた人材の育成に努めています。育成する学生像は次の4点です。

- ①社会の要請に応える人間性豊かな技術者。
- ②社会における果たすべき使命を自覚し、創意と工夫のできる技術者。
- ③科学技術に積極果敢に取り組む、誠実で逞しい精神力を備えた技術者。
- ④自他の健康と安全に配慮ができる、健康で明朗な技術者。

##### (3) 教育方針

教育方針は、教職員が日々の教育活動を展開する上で拠り所にするものであり、教育目標を実現させるための指針となるものです。本校では、教育方針を分かり易くするため、専門教育の充実、資格取得の推進、進路指導の充実、学生指導の充実の4分野に分類し、それぞれの指導をとおして教育目標を達成するようにしています。本校では、教育方針の4分野を教育の4本柱と呼んでいます。

本校教育は、教育の4本柱を如何に充実させていくかが、教職員に課せられた使命であります。なお、教育方針（教育の4本柱）の具体的な取り組みについては、教育活動方針と学科教育方針により示しています。

#### 2 教育活動に関する自己点検・自己評価

##### (1) 教育活動方針の設定と達成度

本校では毎年度教育活動方針を策定し、年度当初の教職員全体会議で徹底を図っています。活動方針の達成度については、教職員との面談、管理職による点検をとおして評価し、評価結果は直ちに教職員にフィードバックしています。

また、年度末には教職員に自らの取り組みについて自己点検・自己評価をさせるとともに、

本校教育の強みと弱みを明らかにし、次年度の教育活動方針の策定に役立てています。

#### (2) カリキュラムの策定

本校では、全学科が目指す学科像、育成する学生像、目指す資格、年間指導計画等を網羅した学科教育方針を策定し、学科の教職員が全ての情報を共有できる体制を整備するとともに、一貫性のある学習指導を実現し、無駄のない効率的・効果的な教育を目指しています。本年度は、その入り口に就いたところであり、来年度はシラバスを完成させ、より明確な学科教育方針を策定する計画です。

#### (3) 授業評価と改善

本校では、全教職員を対象とした学生による授業評価、および管理職による授業参観をそれぞれ年2回実施し授業改善に努めています。学生による授業評価の結果は、中間期と年度末の面談をとおしてフィードバックし、教職員に自らの授業の振り返りとともに評価させています。また、管理職による授業参観では、チェックシートによる評価をフィードバックするとともに個人指導を行っています。このことをとおして、教職員に気づきを醸成させ授業の改善に役立たせています。

この他、学生の授業評価にあわせて実施している記述式の要望については、授業改善に関わるものと施設・設備の改善・充実に関わるものに分類し、真摯で妥当性のある意見については積極的に評価し、来年度の教育活動方針の策定に役立てています。

#### (4) 教職員の指導力及び資質能力の向上について

本校では、教職員の指導力の向上については、教務部長を講師として2回教員研修を実施し、授業における指導力の向上に努めています。また、資質能力の向上については、研究紀要への研究論文の投稿、関係国家資格への挑戦、外部団体の研修会への参加等をとおして自己啓発に取り組んでいます。このことについては本年度、教職員の積極的な取り組みが見られ、本校の教育力の向上に大きく貢献しています。

#### (5) その他の教育活動

本校では、外部団体等が実施する協賛行事への参加やコンテスト、卒業制作展等の開催を積極的に奨励し、学生の意欲を喚起するとともに、学校の活性化に繋げています。

### 3 教育効果に関する自己点検・自己評価

#### (1) 就職率の向上

本校では、就職推進課、進路指導課を中心に求人情報を公開するとともに、学生一人ひとりに応じた計画的な進路指導を行っています。とくに、校内での進路講演会、企業説明会、保護者会主催の講演会等の組織的・計画的な取り組みをとおして、進路意識の醸成を図るとともに、企業開拓にも力を入れ多くの求人をお願いしています。多くの学科で、本年度末100%の内定率を達成していますが、一部の学科において未内定者がおり来年度への課題になっています。

なお、本校全体で見ますと就職内定率は95.5%であり、県内の4年制大学の87.7%、専門学校の89.1%から見て、本校はかなり高い内定率であることが分かります。

#### (2) 資格取得率の向上

本校では、学科別に目標資格を定め、卒業までに取得できるよう、長期的な計画を立て、組織的・体系的な指導を行い、高合格率を目指しています。なお、本年度の種目別の合格者数は校内で取りまとめ公表をしています。

#### (3) 学生指導と退学率の低減

本校では、担任・学科長を中心に問題を抱える学生の早期発見に努め、退学を防ぐ木目の細かい指導を行っています。ただ、本年度については、学生指導に困窮するクラスが見られ、教務部長を中心とする強力な指導体制を敷いて取り組んできましたが功を奏さず、これまでにない退学者を出す結果となりました。卒業率94.0%であり、本校が目指す卒業率95.0%には届きませんでした。この結果を受け、来年度は、目標に一步でも近づけるよう、出欠管理

システムの導入やショートホームルームを新規に立ち上げ、卒業率の向上を目指すことにしています。

#### 4 法令等の遵守

##### (1) 本校におけるコンプライアンス

本校では、校内規定としてコンプライアンス規定を設け、教職員に規定に基づく法令遵守を義務づけています。規定は、社会状況の変化や法令の改定等に応じ見直しを行うことにしています。

##### (2) 個人情報の管理

本校では、コンプライアンスに基づき個人情報の厳重な管理を行っています。とくに学生の個人情報は、ネットワーク上から除外し個別のデータ管理を行っています。

##### (3) 自己点検・自己評価の実施

本校では、平成 20 年度の義務づけ以来、個別の分野において自己点検・自己評価を実施してきましたが、本年度から全ての項目について実施し、公表することにしました。今後は、実施内容等の精査を行い第三者評価に耐えうるものにしていきたいと考えています。

# 平成22年度 学校自己評価(No.1) 集計表

調査日 平成23年5月末日

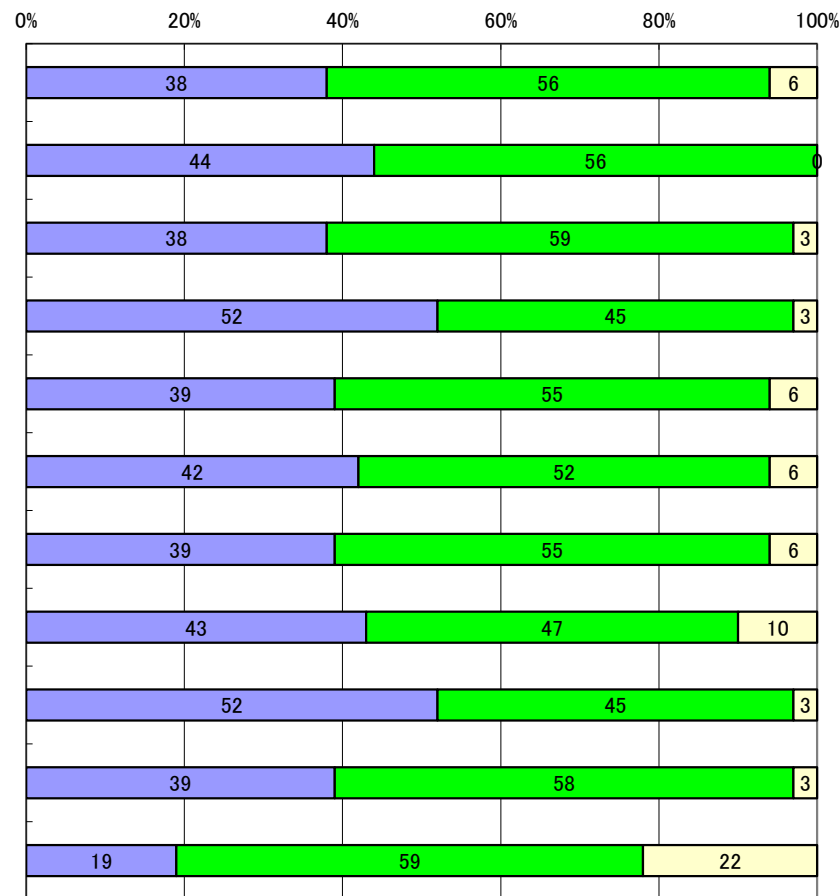
## I 職員の資質能力の向上

※ この評価は、学校が取り組んだ施策が先生方の資質能力の向上にどの程度役に立ったかを評価するものです。「自己評価」欄には具体的に特記すべき内容があれば記入し、「評価」欄は自分にとってどの程度役に立ったかをA、B、Cの3段階で評価してください。

資質能力の向上に A:大いに役立った。 B:まあまあ役立った。 C:役立たなかった。

表中の「平均」はA評価を3点、B評価を2点、C評価を1点として平均したものである。

取り組み項目	具体的取組み	平均	A%	B%	C%
1. 学科ガイドブックの作成	学校教育活動方針について	2.31	38	56	6
	学科教育方針について	2.44	44	56	0
	各科目のシラバスの作成、編集は授業に役立ちましたか	2.34	38	59	3
2.教職員研修の実施(2回)	教師としての基本的な考え方 「あり方」「信念」「姿勢」のトライアングルについて	2.48	52	45	3
	「授業を進める上での具体的な手法について	2.32	39	55	6
	「姿勢」のトライアングル ①傾聴、②質問、③承認の方法について	2.35	42	52	6
3. 公開授業の実施(2回)とコメントのフィードバック	他の先生の授業の参観	2.32	39	55	6
	他の先生からのコメント	2.33	43	47	10
	校長、教務部長からのコメント	2.48	52	45	3
4. 授業アンケートの実施(2回)、報告	授業改善に役立ちましたか	2.35	39	58	3
5. 研究紀要の創刊	教育活動の向上の参考になりましたか。	1.97	19	59	22



## 考察

・「資質能力の向上」に向けた取組みは、A評価が40%以上で、A、B評価の合計が90%以上であることから、概ね良かったと推察できる。特に教員研修「教師としての基本的な考え方」と、公開授業の「校長、教務部長からのコメント」は高い評価であった。

ただし、「研究紀要の創刊」のA評価が低い。これは執筆された先生には大いに効果があったと思われるが、その他の先生への活用方法の説明が不十分であったのではないかとと思われる。内容等を含めて今後の課題としたい。

# 平成22年度 学校自己評価(No.2) 集計表

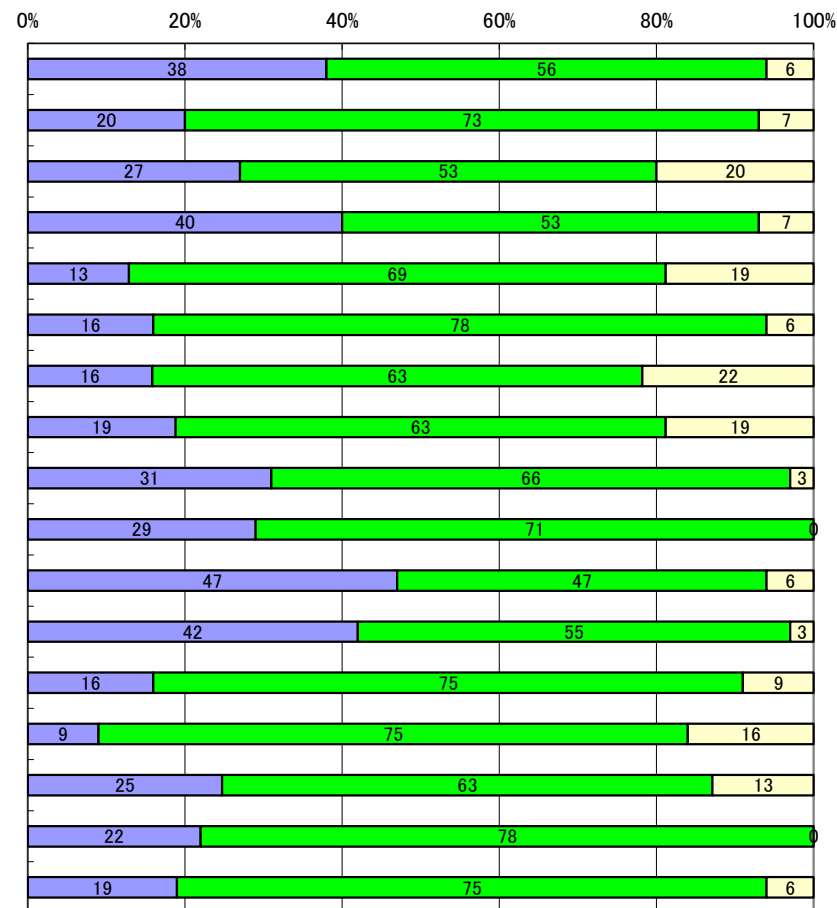
調査日 平成23年5月末日

## II. 学校の活性化に向けた取組み

※ この評価は、学校の活性化に向けた取組みが先生方から見てどの程度達成できたかを評価するものです。「自己評価」欄には具体的に特記すべき内容があれば記入し、「評価」欄にはその取組みの到達度(達成率)をA,B,Cで評価してください。

学校組織の活性化に対する到達度 A:70%以上 B:40%~69% C:40%未満

取組み項目	具体的取組み	平均	A%	B%	C%
1. 広報活動について	体験入学への取組みについて	2.31	38	56	6
	高校訪問による募集活動について	2.13	20	73	7
	会場ガイダンス、学校ガイダンスへの取組みについて	2.07	27	53	20
2. 進路指導について	個に応じた進路指導について	2.33	40	53	7
	キャリア教育の充実について	1.94	13	69	19
	求人開拓及び求人情報の開示について	2.09	16	78	6
3. 学生指導	コミュニケーション能力の育成について	1.94	16	63	22
	部活動や学校行事へ参画意識の醸成について	2	19	63	19
	欠席率や退学者の減少への取組みについて	2.28	31	66	3
	進級率・卒業率の向上について	2.29	29	71	0
4. 保護者との連携について	電話連絡や家庭訪問について	2.41	47	47	6
	理解や協力関係の構築について	2.39	42	55	3
5. 全面禁煙に向けての取組み(定着に向けての段階指導)	喫煙のもたらす問題点等のHRでの指導について	2.06	16	75	9
	学生の意識の改善にどの程度効果がありましたか	1.94	9	75	16
6. 資格取得指導	補習に取組む組織作りについて	2.13	25	63	13
	年間を通した計画的な指導について	2.22	22	78	0
	指導上の工夫について	2.13	19	75	6



## 考察

- ・「学校の活性化に向けた取組み」の評価について、先生方個人の評価になっているところが多分に見られる。
- ・17項目中、A評価は40%以上が3項目、30%以上が3項目、30%未満が11項目であり、A評価が少ない。しかし、A、B評価の合計では80%以上がほとんどである。
- ・課題がある項目は、①「ガイダンスへの取組み」 ②「キャリア教育」 ③「コミュニケーション能力の育成」 ④「部活動や学校行事への参画意識の醸成」 ⑤「全面禁煙に向けての取組み」 ⑥「資格取得指導」などである。努力してもなかなか成果の出にくい項目ではあるが、今後も継続して組織的な粘り強い指導が必要であると思われる。